

■林屋辰三郎 日本史学者。中世町衆、とくに芸能を対象に"林屋史学"形成、学界のみならず市民層にも影響。
はやしやたつさぶろう
第一次大戦始1914＝ 金沢市の繁華街で、江戸時代半ばから続く茶商の四男に生まれるが、父の厄年にあたったことから、
21ヶ条要求・1915＝ 1歳：当時の風習で捨子とされ、陶業から貿易まで幅広く手掛ける父の兄次三郎の養子となり、東京に移る。

大暴落・・・1920＝ 6歳：この年勃発した尼港事件を明確に記憶するなど、幼時より早熟・英敏で、
原敬首相暗殺1921＝ 7歳：慶応義塾幼稚舎に入り、

関東大震災・1923＝ 9歳：大震災に遭遇、養父の店舗も全焼したため、一時避難生活も体験、
護憲三派圧勝1924＝10歳：養父の仕事の関係で、一家で中国に渡航、北京日本小学校に編入、

円本時代始・1926＝12歳：単身帰国して、
金融恐慌・・・1927＝13歳：同普通部に進むが、エスカレーター式教育に飽き足らず、
共産党事件・1928＝14歳：自ら望んで実父がいた京都に移住し、府立京都第一中学校に編入、優れた教師から東洋史や国語を学ぶとともに、自由な校風のもと、天皇陵や古社寺巡りをして、歴史を現場から考える習慣を身につけて行き、

満州事変・・・1931＝17歳：卒業し、第三高等学校文科甲類に入学。平泉澄と並ぶ中世史研究第一人者中村直勝に師事、史学同好会の設立にも参加、会誌{史}刊行し、早くも執筆活動、

五一五事件・1932＝18歳：

芥川直木賞始1935＝21歳：卒業して、京都帝国大学文学部史学科に進学、国史を専攻し、西田直三郎から課題"中世芸能の社会的意義"を与えられて研究を進め、

日中戦争始・1937＝23歳：
健保+総動員 1938＝24歳：「近世初期に於ける遊芸の研究」を提出して卒業。大学院に進み、

同学部副手、第三高等学校講師等を勤めるうち、
日米開戦・・・1941＝27歳：京都府寺院重宝調査臨時事務を嘱託され、
近代の超克・1942＝28歳：結婚、直後の眼疾、養父の死去という多事のなか、
創価学会検挙1943＝29歳：大学院を退学。恩師西田のアルバイト配慮で、京都市史編纂事務を嘱託される。
年金+総武装 1944＝30歳：処女作「角倉了以とその子」を刊行したところで、
敗戦・・・1945＝31歳：*<敗戦>を病床で聞き、科学的・民主的な日本史研究をめざし{日本史研究会}を発起、代表委員となる。以後、ほとんど独力で会誌{日本史研究}の編集に当たり、史料研究部会のため毎週木曜に自宅を開放し、自らも30年余年「大乘院寺社雑事記」輪読を続けるなどして、東京の{歴史研究会}を超える存在にしてゆく。

新憲法施行・1947＝33歳：大学院以降の芸能研究成果をまとめ、「日本演劇の環境」を刊行。
極東裁判決・1948＝34歳：京都市史編纂がやむなく中断となり、立命館大学教授に就任、
三大事件・・・1949＝35歳：さらに進めた芸能研究をまとめ、芸能史第2弾「かぶきの成立」を刊行。
朝鮮戦争始・1950＝36歳：岩波{思想}に*「町衆の成立」を発表して、中世史学界に波紋を呼び、
独立回復・・・1951＝37歳：大学評議員。社団法人認可となった部落問題研究所の理事。「院政政権の歴史的評価」「御教書の発生」、
メデー事件・1952＝38歳：「継体・欽明朝内乱の史的分析」と、矢継ぎ早に学界へ問題提起。
TV放送始・・・1953＝39歳：「中世文化の基調」、
自衛隊発足・1954＝40歳：「歌舞伎以前」、

この間、戦前の能勢朝次の大著「能楽源流考」を超える中世芸能成立史論の構想を抱き、
国連加盟・・・1956＝43歳：文学部長。
ワカソラメン・1958＝44歳：半年の内地留学を認められて授業から解放される間、集中的に調査・研究して、
美智子妃・・・1959＝45歳：
安保闘争・・・1960＝46歳：*書き下ろしの研究書「中世芸能史の研究」を刊行、絶賛されるとともに、
タイタイ病始・1961＝47歳：芸術選奨文部大臣賞となり、文学博士の学位を受ける。
全国総合計画1962＝48歳：「町衆の成立」を一般向けに書き直して岩波新書「京都」を、
TV宇宙中継始1963＝49歳：受賞を機に{芸能史研究会}を創立、代表委員となる。
東京ワビック 1964＝50歳：「光悦」。続いて中公新書「町衆」を出版、いずれもロングセラーとなって行く。
大学紛争始・1965＝51歳：再開された京都市史編纂委員。部落問題研究所で編集に関わった「部落史に関する総合的研究」が朝日賞。
いざなぎ景気1966＝52歳：文化厚生会館事件をめぐる社共の対立で、部落問題研究所理事を辞任、
美濃部都知事1967＝53歳：「日本・歴史と文化」(上下)、2度目の文学部長になっていたが、
霞ヶ関ビル・1968＝54歳：立命館大学でも大学紛争が始まり、
全共闘・・・1969＝55歳：<全共闘>に伴う学園紛争になって収拾不能に至ったことから、立命館大学を辞職。
大阪万博・・・1970＝56歳：梅棹忠夫らの運動で、京都大学人文科学研究所教授に就任、
ドルショック・・・1971＝57歳：{日本史研究会}代表は、幾多の困難がありながらも信念を貫いて、この年まで続けた。
日本文化研究部門を主宰、化政期以降明治初期の文化史研究を推進、

石油ショック1973＝59歳：
角栄金脈辞任1974＝60歳：同研究所の所長に就任。

田中角栄逮捕1976＝62歳：人文科学研究所として編集に従事した成果は「化政文化の研究」、
JALハイジャック 1977＝63歳：
成田衝突・・・1978＝64歳：「幕末文化の研究」、定年退職。京都国立博物館館長となり、
革新大敗北・1979＝65歳：「文明開化の研究」の三冊に結実。紫綬褒章。
この間、{芸能史研究会}を指導して「日本芸能史」の編纂に取り組み、
第一巻を刊行、
・・・1981＝67歳：
中曽根内閣・1982＝68歳：

ジャンボ機墜落1985＝71歳：退任した。
バブル始・・・1986＝72歳：「日本芸能史論(全3巻)」。
この前後、財団法人{冷泉家時雨亭文庫}の設立に関わり相談役・評議員を勤めたほか、学会・美術館など各種の役職を通じ文化行政の分野に功績を残した。
昭和天皇没・1989＝75歳：京都府文化賞特別功労賞。
ドイツ統一・・・1990＝76歳：*「日本芸能史」全7巻が完結。日本史および日本芸能文化史の業績により朝日賞を受賞。千利休の書状など"燈心文庫"と呼ばれる古文書のコレクション500点を京都市歴史資料館に寄贈し、
バブル崩壊・1992＝78歳：日本学士院会員となり、
55年体制終・1993＝79歳：

オウム(サリン)事件1995＝81歳：
・・・1998＝84歳：没した。